

イワナシ *Epigaea asiatica* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。日本海系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、しかも人為的影響を受けやすい場所に生育している。総点は 15 であるが、減少傾向が特に著しいことを考慮し、絶滅危惧 I A類と評価する。

【形態】

常緑性の小低木。茎は地上をはって広がり、長さ 10~25cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵形、長さ 4~10cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、やや革質で、辺縁にあら毛が生える。花期は一般的には 5~6 月であるが愛知県では 3 月下旬、枝先に総状花序をつくり、3~8 個の花をつける。花は淡紅色、花冠は筒状で長さ約 1cm、先端は 5 裂して広がる。果実は直径約 1cm、緑色または赤褐色を帯びた薄い果皮に包まれて、白色の水気の多い果肉がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：47 小牧(塚本威彦 2592, 1997-10-25)、48 春日井(秋山葉子 54, 1993-4-6)。45 犬山(秋山葉子 116, 1994-3-21)にもあったが、現地では最近確認できないという。

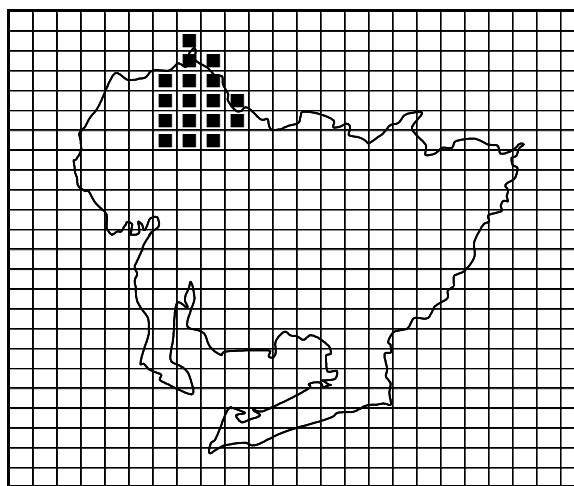
【国内の分布】

北海道西南部と本州の、主として日本海側に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般に山地の林縁の斜面などに生育するが、愛知県の生育地はやせた丘陵地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られており、個体数も極めて少ない。遷移の進行や開発、園芸目的の採取などにより、著しく減少している。

【保全上の留意点】

やせ山状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、保護されている場所以外では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の味がナシに似ているからである。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 5 に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

【関連文献】

保木本 I p.140, 平草本 III p.11, 平新版 4 p.231, SOS 旧版 p.68, SOS 新版 p.87,89.